

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河南中学校長

令和 8 年 4 月 2 3 日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は 3 年生で、国語、数学、英語の 3 教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率（英語は I R T スコア）の比較】

教 科	全国平均 正 答 率	下回って いる	やや下回 っている	ほぼ同じ	やや上回 っている	上回って いる
国語	6 3 . 9 %					○
数学	5 7 . 0 %					○
英語	4 9 9 点				○	

※中学校英語は C B T（コンピューターテスト）のため、「I R T スコア」になります。

「I R T スコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は 5 0 0 点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	63.0%					○
情報の扱い方に関する事項	70.4%					○
話すこと・聞くこと	63.9%					○
書くこと	67.4%					○
読むこと	59.7%					○

【考 察】

- すべての領域で、全国平均を上回りました。特に、「書くこと」の領域の正答率が高く表れました。記述式で答える問題で、全く何も書かなかった「無解答率」がどれも非常に低かったことを併せて考えても、記述の力が高いといえます。今後も思考したことを書いたり話したりする表現活動と、その中で互いに評価・承認し合う活動を適切に設定し、より力を高めていきます。
- 語句の意味や使い方に対する理解や、設問での複数の解答条件の指示を読み取ることに課題がありました。今後は、語彙を増やし、文章を正確に読み取ることができるよう、リーディングスキルを高める工夫をしていきます。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	67.8%		○			
図 形	48.7%				○	
関 数	54.8%					○
データの活用	53.5%					○

【考 察】

- 「関数」「データの活用」の領域では、全国平均を上回りました。しかし、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、考え方は捉えられているものの、説明が不十分である解答が目立ちました。今後は、問題解決の過程や考え方を言語化し、説明に必要なキーワードを使って数学的に表現する力を育んでいきます。
- 「数と式」の領域では、全国平均をやや下回りました。特に、数に関する事象を考察する場面で、事柄が成り立つ理由を文字を使って説明する力に課題が見られました。今後は、式の意味を読み取ったり、根拠を明確にしながら文字を使って説明したりする場面をより多く取り入れ、文字式のよさや有用性を実感できる授業を行っていきます。

【英語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※英語については、公表されている問題が全体の5割程度であり、国語や数学のように領域の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 「聞くこと」「読むこと・書くこと」の領域では、正答率が全国の平均を上回りました。特に「聞くこと」の領域については、ほとんどの問題で正答率が高く、英語を聞き取る力がしっかりと身に付いているということが分かります。今後も、言語活動を中心に、知りたい・伝えたいという意欲を刺激し、思考力・判断力・表現力を育む授業の充実に努めてまいります。
- 自分の考えや気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題に関しては、正答率も高く、全国平均を大きく上回っていました。しかし、社会的な話題について書き手の意図を読み取ったり、理由を書いたりすることが苦手なことが明らかになりました。授業内で英字新聞やニュースなどの社会的な文章に触れる機会を増やしたり、自分の意見をしっかりとをもってまとまりのある英文を書いたりするような活動を授業に位置付けていきます。

令和8年度 全国学力・学習状況調査質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立白河南中学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、生徒の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
中	全 国	27.4	50.8	18.6	2.7
3	白河南中	26.8	63.4	9.8	0

(単位 %)

【考 察】

- ほとんどの生徒が肯定的な回答をしており、その割合は全国平均を大きく上回りました。昨年度の同質問の回答と比べても増加しています。「分からないこと」をそのままにせず、教師に質問したり、タブレットを用いて調べたりする生徒が増えています。
- 本校では、自己マネジメント力を身に付けるために、R－PDCAサイクルを意識した学習活動に継続して取り組んでいます。振り返りを重視し、学習の弱点や不足している内容を強化・補充することを習慣化できるように、今後も支援していきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
中	全 国	8.9	21.2	31.5	19.5	11.5	6.9
3	白河南中	2.4	43.9	41.5	9.8	2.4	0

(単位 %)

【考 察】

- ほとんどの生徒が1時間以上学習しており、全国平均を大きく上回りました。また、昨年度の同質問の結果と比較しても大きく増加しています。家庭学習の習慣が身に付いており、時間も確保できているといえます。個に応じた家庭学習の指導・助言を丁寧に続けていることも、生徒の意欲付けや目的意識の向上に結び付いていると考えられます。
- 今年度から「フォーサイト手帳」を活用し、家庭での時間を自己マネジメントする手立てとしています。「時間の使い方に見通しをもつこと」「メディアコントロールをすること」を意識し、学習時間とメディア利用時間の記録を続けています。また、その記録を活用し、学習委員会や保健委員会がそれぞれ強化週間を設け、生活改善のきっかけ作りに力を入れています。この活動を今後も継続していきます。

3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	29.3	49.7	17.2	3.2
	白河南中	39.0	51.2	9.8	0

(単位 %)

【考 察】

- 肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均を大きく上回りました。昨年度の本校の割合と、ほぼ同じ水準を保っています。学習したことへの振り返りの習慣が定着しているといえます。
- 本校全体で取り組んでいるR－PDCAサイクルは、生徒の家庭学習だけでなく、教師の授業づくりでも実践しています。「C (Check)」にあたる「振り返りの充実」を意識した授業を今後も継続し、授業を通しての成果と課題を言語化することで生徒が次の学習に結び付けていくことを支援していきます。

4 授業や学校生活では、友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	49.0	43.4	5.0	1.4
	白河南中	68.3	29.3	0	0

(単位 %)

【考 察】

- 「当てはまる」と回答した生徒が全国平均を大きく上回っています。また、否定的な回答をした生徒はいませんでした。級友や仲間と話し合い、検討し合い、協働で課題を解決する活動が実践できているといえます。
- 学習や諸活動に協働で取り組むことができる、良好な人間関係が築かれているといえます。各教科や道徳の授業、集会活動においても、互いに意見を伝え合ったり、検討し合って考えを練り上げたりしてきました。協働の効果がさらに高められるよう、今後も積極的に対話を通じた活動を取り入れていきます。